

平成27年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成27年12月10日(木)
午後3時～午後5時15分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

1 挨拶

- 和泉会長挨拶

2 議題

(1) 協働モデル事業について

ア 現在の進捗状況と今後の進め方について

- 前回会議で平成27年度協働モデル事業を「居場所づくり」(栄宝会と形原一区町内会の2箇所で開催)に決定。具体的な取り組みについて両委員から資料に基づき説明。
 - ・石川委員「栄宝会」の取り組みについて(資料1+当日配布資料)
 - ・天野委員「形原一区町内会」の取り組みについて(資料2+当日配布資料)
- 結論
 - ・現時点で契約には至っていないため、引き続き実施内容について検討し早期契約を目指す。また、各委員から助言的な意見があったため今後の参考とする。
- 委員意見等
 - ・居場所づくりの場所としてお寺を活用することは先駆的でモデルになりうる。お寺側としても、住職が顔を出して話すこともできるし、悩みに対して相談に乗るなど役立てることもあると思う。
 - ・他地区の高齢者サロンでは児童館との交流を行っているところもある。居場所の参加者と子どもの交流はよいこと。子どもに対して高齢者のノウハウをどう伝えるか生涯教育の一環でもある。
 - ・地元企業がどう関わるか。清掃や防犯など地域活動を行う目的は一緒。
 - ・2つの取り組みは違う展開。お互いにいいところ取りできるとよい。
 - ・継続して支援できる訳ではないので、継続できる資金作りを検討しなければならない。
 - ・花苗を育てることをモデルとして取り組み、うまく育てば販売して居場所の資金にできれば活動の運営資金確保になる。売る場所として市内一般小売店からも提案がある。育てる場所として有給農地も検討。
 - ・活動が継続するためには新しい人が参加できるとよい。いずれは天野委員、石川委員の後継者の育成も必要になる。居場所づくりはひとつづくり。
 - ・定年後の市職員もぜひ関わってほしい。定年前セミナーで紹介してはどうか。定年後に地域と関わってほしい。
 - ・企業としても、地域の理解がないと企業活動ができない。地域貢献活動は企業としてもメリットになる。
 - ・居場所は場所ではなく社会的役割。

- ・男性をどうやって取り組むかが大事。
- ・行政として長寿課だけの課題ではなく「地域の課題」。
- その他報告事項
 - ・モデル事業候補であった鈴木委員&小林英一郎委員による「若者の就労支援」&「まちづくり・まちおこし団体等の連携」について、具体的な活動として、うどんサミットに若者サポートステーションの利用者がボランティア参加したことを小林英一郎委員より報告。

(2) 市民企画公募まちづくり事業助成金について

ア 平成28年度助成金一部改正について

- 事務局から資料4・5に基づき説明
 - ・改正箇所についてがまごおり市民まちづくりセンターより説明。審査員について協議。
- 結論
 - ・改正点は配布資料のとおり承認。
 - ・審査員は和泉会長に一任することで承認。理由：より多くの応募を募るため、協働まちづくり委員も申請ができるようにする。そのためには、委員が審査員を選定するのではなく、毎年審査委員長を務めていただいている和泉会長に一任することがベストと考える。

イ 平成29年度助成金全面改正について

- 事務局から資料6について説明
 - ・全面改正する場合の方向性について協議。提案として5つのテーマを示し、どの方向性で進めるか協議した。
- 結論
 - ・方向性を一つに絞ることはしない。テーマを絞らずワーキングで検討する。理由：応募する側がテーマを分けることで応募しにくくなることが懸念される。また、先にテーマを固めてしまうと他のアイデアが出ない可能性があるため。
 - ・ワーキンググループのメンバーとロードマップは事務局で原案を作成し、次回会議で協議。
 - ・メンバーの人数は7～9人程度。

(3) その他

- 助成金交付団体による情報交換会（賀詞交歓会）を平成28年1月16日（土）蒲郡市民会館で開催することを報告。委員へ出席依頼。
- 平成28年度助成金募集ポスター原案を提出。
- 伊藤委員が蒲郡青年会議所まちづくり委員長の任期満了（平成27年12月31日）のため今回が会議出席最終日となる。本人よりご挨拶。
- 次回会議は、後日調整する。

欠席者 鈴木委員、委員数11人中出席委員10人（会議成立）